

## 石垣ロータリークラブ週報

: 今月のロータリーレート \$ 1=111 円:



### 四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなの為になるかどうか



地区ガバナー: 松坂 順一氏「研修と活性化」

◆クラブテーマ『ロータリーを楽しもう!』

国際ロータリー第2580地区  
今週のクラブ紹介

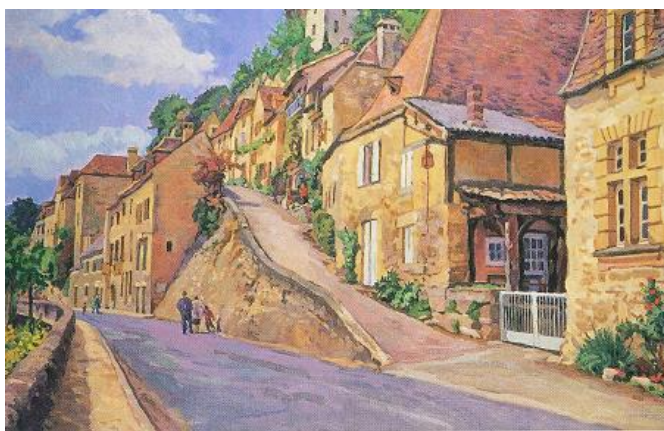
### 東京武蔵野ロータリークラブ

会長: 荒井 伸吉 テーマ「健康で楽しく社会奉仕を! 仲間を増やそう!」

例会日時: 火曜日 12:30~13:30 場所: 吉祥寺第一ホテル

### 山添いの家

~ 東京西北ロータリークラブの誕生 1957年6月 ~



第23回日展(1991)文部大臣賞

画: 大津 鎮雄

2018-2019年度の東京武蔵野ロータリークラブのホームページには大津鎮雄雅楽による「山添いの家」を掲載しています。

大津画伯は、東京武蔵野ロータリークラブの元会員であり、絵画の分野において輝かしい活躍をされました。

創立 1957年 (東京地区7番目)

親クラブ: 東京西ロータリークラブ

創立時のメンバー: 竹崎 徹 会員以下22名

1970年~1971年度 (第14期) 地区大会ホスト

1987年~1988年度 地区ガバナー 上田 正夫 会員

2000年~2001年度 ガバナー補佐 鈴木 照夫 会員

2008年~2009年度 地区ガバナー 櫻井 権司 会員

2017年度 会員数 (7月現在) 28名

2017年度 創立60周年記念を迎える

### 姉妹クラブ

台湾高雄東ロータリークラブ (1970年 第13期 締結)

<8月の予定> 22日(水)休会 29日(水)夜間例会



会長: 遠藤 正夫 副会長: 橋本 孝来 幹事: 池城 貞光 副幹事: 大田 次男



例会日 水曜日 12:30~13:30

例会場 アートホテル石垣島 (0980) 83-3311

事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町 1-1-4

TEL/FAX (0980) 83-2917

URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>

E-mail [ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp](mailto:ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp)

《第5回 8月8日(水)例会報告 (通算 2799)》

＜司会進行＞ 東上里 和広

ロータリーソング:手に手つないで 四のテスト  
ソングリーダー:新城 永一郎  
会員卓話:大瀨 透氏(大浜印刷)  
メイクアップ:我那覇 宗善 南波 正幸 大瀨 達也 宮良 薫

＜出席報告＞

会員総数:43名  
出席義務会員:42名  
出席数:24名  
欠席数:18名  
出席率:57.14%  
通算出席率:58.73%(7月)



本日のニコニコ

\*遠藤正夫:大瀨透さん  
卓話ありがとうございました。

◆BOX ¥1,000 (累計¥37,000)

◆コイン ¥3,720 (累計¥16,655)

合計 ¥43,655



会長挨拶:遠藤正夫



皆さんこんにちは。幹事が出張で欠席の為、報告いたします。先日、沖縄分区の第一回分区分区連絡会がありました。当クラブからは3名の出席。私と大浜勇人さん、新さんが出席いたしました。2019-20年度、次年度のガバナー補佐、沖縄分区からは宜野湾 RC の宮城富夫さんと名護 RC 奥本弘文さんが決定いたしました。2010-21年度には那覇と石垣という予定になっています。次年度に関しては諸事情によりお断りしてきましたが、ガバナー補佐になってもいいという方がいましたら是非、よろしく願いいたします。今年度のIM大会ですが、那覇市長選、県知事選とかと重なっていますが当初の予定通り10月16日にパシフィックホテル沖縄の方で行われます。芝田祐蔵ガバナー補佐の方から、今回のIM大会はいつもやっている余興とかの催し物はやらずに、ディスカッション、話し合いの場としてやっていきたいという事です。是非、皆さんの参加をお願いいたします。また、東京東江戸川ロータリークラブ創立50周年記念式典・祝賀会の案内が来ております。

申し込み期限が8月31日。期日は10月27日(土)登録 13:00 開始、場所は東武ホテルレバント東京です。お世話になっておりますので、是非ご参加下さい。参加される方は事務局までお願いいたします。

石垣 RC オリジナルのポロシャツを作ってみました。イベント等で着て頂けたらと思います。ご注文される方はサイズと色を事務局までお願いします。本日は大瀨透氏の卓話です。よろしく願いいたします。

《会員からのお知らせ》 前木組:前木 繁孝氏

弊社が毎月発行している月刊紙を皆様にお持ちいたしました。偶然にも大浜印刷さんが印刷についてのお話する時と重なりましたが、手作りで5,000部を輪転機を回して印刷し、折り込みも差し込みも手作業でしています。石垣中学校の女子バレー部と父兄に作業して頂いており、真喜良から桃林寺の方まで配らせて貰っています。基本的には弊社の建築に関わった方達にミニコミ紙として配っていますが、木工教室と私の独り言が書かれておりますので、お時間がありましたら読んで頂けたらと思います。よろしく願いいたします。

会員卓話:大瀨 透氏 大浜印刷

テーマ:あーやったん印刷 アナログからデジタルへ



皆さんこんにちは、本日は、ロータリ卓話にあたり私の職種であります「印刷はあーやったん」と題しまして、印刷の時代の移り変わりを私の知る範囲内でお話しさせて頂きたいと思ひます。まずは、自己紹介です。大浜印刷、大浜です。宜しくお願いします。出生は昭和35年10月那覇市で1,300gの未熟児で誕生し約半年間、保育器で育てられ出生届けは、昭和36年4月7日付けで石垣市に届け出たそうです。この事を私が初めて知ったのは中学生の頃でした。探し物がありタンスの引き出しの中から、へその緒らしき箱を見つけ、裏を見ると大浜透、昭和35年10月3日那覇市で出生と書かれてあり、すぐ様、母に問いかけると「今がわかる！」との軽い返事でした。「え、あの先輩と同級生！嘘だろう」と複雑な気持ちになりました。「こんな大事な事を今頃か！この親よ～」と思ったものでした。父は、石垣島出身、母は、沖縄本島で、私の妻は、新潟で又、息子の嫁は、福岡出身です。最近思ったのは、大浜家の家系図はちゃんぶる一だなー思ひました。父は、那覇市の新聞会社で印刷工として働いておりましたが、私が生まれ石垣島へ帰ることとなり地元でも数年間新聞会社で働いておりましたが、脱サラし昭和43(1968)年、自営業の始まりで名刺印刷のスタートと聞いております。母と二人三脚で頑張っておりましたが、昭和60年に父が不慮の事故で55歳の若さで他界し、私が24歳の時、東京から帰郷し後を継ぐことになりました。それから、私の印刷業の始まりです。



大浜印刷  
←旧 新→



活字・活版・タイプ・写植・版下・製版とは何か写真でご説明いたします。「印刷」とは、新聞やチラシなどの紙媒体の印刷を思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか？我が社で請け負っている印刷物では、官公庁の出生届・死亡届等の一般書類、離島割引カード、マ

ラソン・とうばら一まポスター、記念誌等々ございますが、最近では、メール、ラインなどの通信通達などの普及で紙媒体の印刷物が、年々減っているのが現状でまた、IT技術の進歩により家庭用プリンターもどんどん進化し、家庭でも手軽にプリントが出来るようになり益々印刷業界は危機を感じている次第です。ひと昔前は、A4 チラシ 1 枚を作成するにもタイプ・写植・デザイン・製版・印刷・製本、特殊加工など多くの工程を経て商品が出来上がっておりました。当然、その現場では、多くの雇用があり各分野に腕利きの職人がおり、仕事を教わりながら成長しておりましたが、デジタルの波が来るぞという時に、アップル社のコンピューター mac が印刷業界に入ってきて大変革の始まりです。皆さんが印刷をイメージする時、よくテレビ等で印刷機から自動的に紙に印刷され裁断・製本される一連の流れを見た事があると思いますが、印刷機で自動的に印刷される物というイメージではないでしょうか。実態はまったく違い、かつて印刷業界には、それぞれの専門職種が存在し、それぞれに独立した会社がありました。完全に分業化された製造体制です。印刷は、その前工程が実に複雑で多岐に渡っており、一社で全行程を請け負っている会社はありませんでした。そのほとんどの中間工程に位置する専門業は、完成品にするまでに、何工程もの製造過程があり、その工程ごとに専門化された会社が存在しておりました。その工程が、まるでマジックのように無くなっていきました…。その原因が、デジタル化による印刷の製造革新です。具体的になくなった工程は、タイプ・写植・版下・製版という中間工程で、印刷の仕上がり品質に大きく影響を及ぼす極めて重要な工程です。それらは専門化され、それぞれに独立した会社として運営されておりました。



タイプ



写植



版下というのは、デザイナーが画いた大まかな図案をもとに、正確な寸法で直線や曲線を手書きでなぞり、写植屋さんが打ち込んだ写植文字を細かく切り貼りして清書したものです。製版とは、印刷をするための版をつくる工程です。製版は、版下屋さんが作った図版とデザイナーが色指定した指図書をもとに、版下を撮影してフィルム化します。その後、現像フィルムを組み合わせて切り貼りしたりと合成作業をします。特殊な技は、この製版という工程の中で細分化されたレタッチという専門家がおりました。ちなみに製版会社の作業場は、フィルムを扱いますので、当然ながら太陽光を遮断した暗い暗室の状態でした。印刷のデジタル化は、1993年ごろから徐々に普及しました。そして、1997年からのインターネットの本格的な普及を契機に、一気にデジタル化が進み、その結果先にあげた中間工程の職業そのものがまるで神隠しにでもあったように世の中から消えてしまったのです。当然ながら全国で数

万人の雇用が奪われました。それまで苦勞して覚え一人前になり、専門職としてプライドをもって仕事をしてきた職人さんの職そのものが無くなったのです。デジタル化を予見し、積極的にインターネット化とデジタル化を進めたデザイン制作会社や印刷会社は生き残り、業績維持することが出来たのですが、デジタル化に対応する時期が1～2年の遅れと、判断力の有無で運命が別れたのです。今の世の中、年を追うごとにスピードの時代で、製造業も含め、他の業界でも、製造から管理、全ての面で AI・ロボットといったデジタル化の波が押し寄せています。その意味では、本当に変化の時代に直面しております。この変化に率先して対応した企業だけが生き残る事が出来るといえるでしょう。時代の変化をうまくとらえ、それを楽しみながら今後も、頑張っ参りたいと思っております。今日はどうもありがとうございました。



アナログの細かい作業の大変さ、丁寧さを感じました。大濱透氏卓話ありがとうございました。

～ 例会風景 ～

